



第 13 回ランチタイム FD
FD 研究会～研究と教育の関係を探る

地方における 日本語の現状

—ウチナーヤマトゥグチ
(沖縄大和口) の事例—



2012 年 6 月 13 日 (水) 12:10 ~ 12:50 (40 分間・発表 25 分、質疑応答 15 分ほど)
場所：東北大学川内北キャンパス講義棟4階 C408

発表：副島 健作 准教授 (高等教育開発推進センター学生生活支援部日本語研修室, 専門：言語学, 日本語教育)

地方における日本語は共通語化が進んでいます。実際沖縄では、旧来の琉球方言を完全に話せるのは 50 代後半から 60 代以上で、40, 50 代となると「聞けば大体分かる」という人もいますが、30 代以下では「全く分からない」という人がほとんどだと言われています。このまま方言は私たちの周りからなくなってしまうのでしょうか。

しかし一方で、地方の若者の間では、標準的な日本語 (以下、共通語) ではなく、方言の影響を受け、地域的な特徴をもった共通日本語 (以下、地方共通語) が日常的に使用され、新しい表現も広まっています。つまり、地域社会では方言は形を変えて保持され、共通語と共存していくことになるのではないのでしょうか。

地方共通語の中には、共通語と形態が同じであるが、意味や用法にずれがある「**気がつきにくい方言**」と呼ばれる表現が多数含まれます (例えば、そちらに移動するという意味で話し手が発する「これから来るよ」など)。この発表では、沖縄における「気がつきにくい方言」の一端を紹介しながら、共通語や他方言との接触による言語変化の現状について考えます。

申込み不要。当日参加歓迎。お気軽にご参加ください。



セミナーに関する問合せや発表の申込みはこちらまで：
高等教育開発推進センター人文社会科学 教授 芳賀 満 e-mail: mhaga@he.tohoku.ac.jp tel: 3371
高等教育開発推進センター事務室 鎌田 裕子 e-mail: y.kamada@he.tohoku.ac.jp tel: 7551
| 主催：東北大学高等教育開発推進センター 企画：人文社会科学教育室